学校番号	115

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（３年）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	精選古典Ｂ　改訂版（三省堂）						
副教材等	「完全頻度順入試対策ベストセレクション古文単語３２５」（尚文出版） 「錬成古文」（尚文出版） 最新国語頻出問題（文英堂） 「新総合国語図説」（東京書籍） 「原色新日本文学史　増補版」（文英堂） 「解釈のための必携古典文法　三訂版」（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・２年生での既習内容を含めた文法事項や語彙力についての知識を深め、古典の文章を正しく読解する力を身につけること。
・予習として本文書写や語句の意味調べを行い、また復習を習慣づけるなど、計画的、主体的に学習に取り組むこと。また、提出物の期限は必ず守ること。

2　学習の到達目標

古典についての理解や興味・関心を深め、古文と漢文を読む能力を養う。古典特有のものの見方感じ方、考え方などに触れながら、現代と共通するものが多くあることにも気づき、自分自身の考え方を広くし、人生を充実させる豊かな感性を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c：書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	様々な古典作品を読むことで理解の向上を図る。古典に対する興味を深め、読み味わう楽しさを知る。			時代背景、様々な文学ジャンルに応じた読解ができる。また様々な表現を味わって読むことができる。	重要古語や古典文法についての知識を深める。時代背景等歴史的、文化的知識への理解を深める。
評価方法	行動の観察 記述の点検（ノート、ワークシート等）			記述の確認および分析 定期考査	行動の観察 記述の点検（ノート、ワークシート等） 定期考査 授業時小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	随筆 日記	『枕草子』大納言殿参り給ひて 『和泉式部日記』夢よりもはかなき世の中	○			◎	○	a 平安時代の宮廷生活や貴族の生活のあらましを理解する。 d 会話や敬語に注意して、登場人物の関係を把握し、その心情も理解する。 e 重要な語句、文法について理解を深める。	a 行動の観察、記述の点検 d 記述の確認、定期考査 e 小テスト、定期考査
	物語	『大鏡』東風吹かば 都府楼の鐘	○			◎	○	a:歴史物語としての特色に関心をもち、理解を深めようとしている。登場人物の性格の違いに関心を持つ。 d:発言や動作に現れる心情を味わう。 語彙を正確に理解し、作者の意図する面白さを味わう。 e:敬語法の確認。内裏の構造の理解。 重要な語句や句法、文法事項について整理し、理解を深めている。	a 行動の観察、記述の点検 d 記述の確認、定期考査 e 小テスト、定期考査
二学期	物語	『源氏物語』 廃院の怪あ(夕顔) 心づくしの秋風(須磨)	○			◎	○	a:平安時代の貴族の生活、習俗や文化的背景についての知識を深めようとしている。 d:「須磨」の巻までのあらすじを理解している。登場人物の心情、行動等読み取ろうとしている。和歌について誰のどのような心情を表したものか的確に読み取る。格調高い名文を読み味わう。 e:重要な語句や文法、和歌の修辞技法について知識を深めている。平安女流文学の流れを理解している。	a 行動の観察、記述の点検 d 記述の確認、定期考査 e 小テスト、定期考査

二学期	物語	『源氏物語』 明石の君の苦悩(薄雲) 萩の上露(御法)	○			◎	○	a:平安時代の貴族の生活と女性の境遇についての知識を深めようとしている。 d:紫の上、光源氏、明石の中宮、各人の様子と心情を読み取っている。 和歌に込められて各人の心情を読み取っている。 e:重要な語句や文法、和歌の修辞技法について知識を深めている。平安女流文学の流れを理解している。	a行動の観察、記述の点検 d記述の確認、定期考査 e小テスト、定期考査
三学期	評論	『無名抄』 深草の里	○			◎	○	a: 和歌の精神、「おもて歌」の意義を理解しようとしている。 d: 和歌の内容を理解し、どのような評価につながるかを把握している。 e: 人間関係・和歌の修辞・文法を理解している。	a行動の観察、記述の点検 d記述の確認、定期考査 e小テスト、定期考期考

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力

c ：書く能力　　d:読む能力　　e ：知識・理解

※　年間指導計画（作成上の留意点）

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。